**平成27年度　高知県心の教育センター研究員研究報告要旨**

高知県心の教育センターでは、いじめや不登校・非行等の問題への対応を充実させるとともに、予防的な視点に立ち、生徒指導、学級経営等のあり方について、関係機関と連携して研究を行い、子どもたちの豊かな心をはぐくむために心の教育の充実に取り組んでいます。

本研究員制度は、勤務地において通常の勤務をしながら、心の教育センターと連携して実践的な研究を行うものです。本年度は、４名の研究員からの実践が報告されました。この研究の成果を広く知ってもらえるように、ホームページ上に要旨・報告書を掲載することにいたしました。

なお、研究の詳細を知りたい方は、高知県心の教育センターまで、問い合わせていただきますようお願いします。

高等学校における校内支援体制づくりについて

～「わかる授業」づくりのチェックシートの改善～

高知県立中芸高等学校　教諭　田中　祥裕

Ａ校は、発達障害のある生徒、学力的・家庭的・経済的に厳しい状況の生徒など、多様な生徒が入学してい

る。本年度も学校アンケート結果などから、学校生活において自己肯定感が低く、コミュニケーションや集団参加に課題を抱えている生徒が多く在籍することがわかっている。このような実態をふまえ、全教員が共通認識したうえで、ユニバーサルデザインを意識した「わかる授業」づくりについての研修や実践に取り組んできた。

本年度も引き続き学校全体の協働体制のもと、一年間の実践的研究を続けることとしたが、その中で生徒対応に追われる教員の多忙感を軽減し、より有効な支援体制とするための新たなチェックシートを試作し、教員の自己目標の設定や面談、評価にも活用することとした。

**＜キーワード＞**教員支援、「わかる授業」づくり、チェックシート、継続性

# 高等学校における校内支援体制づくりについて

～チーム援助を核にした支援サイクルづくりを通しての考察～

高知県立大方高等学校　教諭　大島　励仁

近年、教師集団や生徒・保護者の「発達障害」に対する理解・認識は向上し、校内支援体制の整備状況は大幅に改善されたと言える。しかし、高等学校に在籍する発達障害傾向のある生徒の中には、二次的な障害を引き起こし学校生活に大きな困難を抱えている生徒が少なくないのも実状である。このような事例では生徒の課題や背景が見えにくく、本人も保護者も教師も効果的な解決の糸口を探すのに苦労している。多様化・複雑化する生徒の援助ニーズに応え、安定した支援を行うためにも、組織的な支援体制の構築が急務である。

　本研究では、生徒の課題や援助ニーズに応じた組織的かつ恒常的な支援を行うための効果的な校内支援体制づくりについて、Ａ高校での取組を基に考察することとした。

**＜キーワード＞**特別支援教育　校内支援体制づくり　チーム援助

仲間が支え合う温かい学級づくりの在り方についての研究

～ピア・サポート活動の特性を生かした実践を通して～

土佐町立土佐町小学校 教諭　岡林　由香

本研究の目的は、ピア・サポート活動の特性を生かした異学年交流活動を行うことで、子どもたちの承認感が醸成され、仲間が支え合う温かい学級を育むことができるか検討し、具体的な提言を行うことである。そこで、小学１年生を対象に、保育園年長児との交流において、自己目標を設定してチームで取り組み、さらに学級の仲間同士で互いのよさを伝え合う活動を行った。なお、発達段階に合わせ、第Ⅰ期では教師主導の活動の中でサポート場面を設定してペアで活動した。第Ⅱ期Ａでは日常の学校生活において、友だちから助けられたり、してもらったりして嬉しかったことをありがとうカードに記入し、第Ⅱ期Ｂでは児童主導に移行し、計画から準備、当日の司会・進行まで全てを児童に任せ、児童が主体的に活動することができる異学年交流を実施した。

その結果、温かいメッセージを伝え合う人間関係が広がり、児童の承認感が醸成され、仲間が支え合う温かい学級を育むことができることが明らかになった。

**＜キーワード＞**ピア・サポート活動、異学年交流活動、ありがとうカード、承認感

体育授業内での仲間づくり

～プロジェクト・アドベンチャープログラムの活用～

太平洋学園高等学校　教諭　菅原　洋子

Ａ校には、対人関係に不安がある生徒や不登校を経験している生徒が数多く在籍している。そのような生徒が少しでも、「学校は楽しい」「ここに自分の居場所がある」と感じ、友人と思える人を高校生活の中で１人でも見つけて欲しいと考えている。

　そこで、プロジェクト・アドベンチャー（以下PA）のプログラムなどを活用することで、体育の授業内で仲間づくりに繋がる活動を行い、生徒一人ひとりにとって集団が心地いいグループになっていくと考え、研究テーマを設定した。

本研究では、PAのプログラムを定時制１年次生の体育授業の導入として取り入れた。活動を通して、体を動かすことの楽しさや人と協力して課題を解決する達成感、多少の失敗でも許し合える心を育成することを目的として取り組んだ。

**＜キーワード＞**プロジェクトアドベンチャー（PA）、体育授業、アセス